

全学組織の支部

附属図書館医学分館

平成15年の大学統合により、佐賀医科大学附属図書館は佐賀大学附属図書館医学分館となってから15年目を迎える。

この間、学術情報を取り巻く環境は大きく変化した。情報の電子化、オンライン化である。学術雑誌がいわゆる冊子体から電子ジャーナルへと主たる媒体を移し始めて久しいが、その流れは現在も加速している。佐賀大学では医学系だけでも複数の情報ツールを導入しており、現在ではそれらのすべてがインターネットを通じてオンラインで参照する仕組みとなっている。利用者は、たとえそれが遠く離れた他国で発表されたものであっても、常に最新の優れた情報を手に入れられるようになったのである。

かつて利用者は図書館を訪れて雑誌などの資料を検索していた。それがわざわざ来館しなくても学内LANを通じ、講義棟や研究室、附属病院など、キャンパスのあらゆる場所から情報を得られるようになったのである。さらにはほとんどの海外系ジャーナルがリモートアクセスという仕組みを使って自宅や出先などからも利用できるようになってきているし、この数年の間に急速に普及したタブレットやスマートフォンなどのモバイル端末からも利用できる。学術情報はますます場所と時間にとらわれず利用できるようになり、利便性は飛躍的に高まっている。

このことは、従来学術情報を求めて図書館へ来館し

ていた学生あるいは教員が、図書館へ足を運ばなくなるという現象をもたらすかに見えたが、実情は異なる。特に学生では図書館が所蔵する学習のための参考図書類の需要が高く、また大学図書館の元来からの姿である勉強のためのスペースという役割を現在も大きく担っている。特に医学部においては学生の図書館利用が活発で、試験期であるかにかかわらず閲覧席が利用者で満席の状態となることもしばしばである。

医学・看護学分野の図書に限らず小説類などの利用も活発である。図書館活動を支援する有志の学生自らが書店やインターネットで図書館に設置する図書を選ぶ学生選書の取り組みは、およそ10年にわたって実施しており、図書館員目線では気が付かない学生の需要をすくい上げる役割を果たしている。図書館が所蔵していなかった学術書から、話題の新書まで幅広い選書が行われ、この取り組みによって選ばれた図書は常に人気が高い。

館内には現在60台ほどの学生用パソコンを設置しているが、多くの学生がこれらを用いて学習したりレポートを執筆したりしている。備え付けのパソコンデスクの上に館内所蔵の参考図書とノートを広げ、持参したタブレット端末と学生用パソコンの画面を見比べながら学習している学生の姿はいまや珍しくない光景である。

一方、図書館ではこうした時代の流れに応じて学生に向けた文献検索講習会を授業の一部に組み込むかたちで実施している。医学科、看護学科、大学院それぞれの学生に向けてそれぞれに応じた内容の講習を講じている。情報が氾濫する現代社会において、いかに効率よく、かつ適切で正確な情報を得られるかといった情報リテラシーに関する知識を提供することは学術情報基盤たる図書館にとって今後ますます期待される役割であろう。



医学分館



平成28～29年度 医学分館長（附属図書館副館長）
宮本比呂志教授